

「こだいぢ踊り保存会の取組紹介」

1. はじめに

こだいぢ踊りは、毎年8月17日に開催される江尾十七夜の中で行われる伝統芸能です。その由来は戦国時代に滅んだ江美城主蜂塚氏を偲んで来る年も来る年も8月17日の夜に踊り続けられて現在まで伝わったと言われています。また、昭和49年10月18日に鳥取県の無形文化財に指定されました。今回はこの「こだいぢ踊り」という江府町の伝統の継承を行っている団体「こだいぢ踊り保存会」の取り組みを紹介します。

2. 組織の概略

(1) 設立目的

こだいぢ踊りの保存・伝承を目的に設立。

(2) 会員数：32名（歌い手：3名、太鼓：4名、踊り手：25名）

(3) 組織の変遷

設立当初は、江尾十七夜を主催する「江尾十七夜保存会」の中に属していた。平成2年祭りの主催団体が「江尾十七夜実行委員会」に組織変更された際、分離し「こだいぢ踊り同好会」へ名称を変更。平成29年4月1日より事務所を観光協会に設置し、名称を「こだいぢ踊り保存会」と改め現在に至る。

(4) 近年の大会等参加実績

年月日	事業名	開催場所
平成29年 8月5日	ふるさとの盆踊りフェスティバル In 花回廊2017	鳥取県西伯郡南部町 とっとり花回廊
平成29年 9月30日～ 10月1日	第59回中国・四国ブロック民俗芸能大会	岡山県倉敷市 倉敷市芸文館・ホール



第59回中国・四国ブロック民俗芸能大会の様子

(5) 町内での活動

① 江府小学校土曜学習への協力

江府小学校では平成27年から郷土学習の中で江尾十七夜を体験する学習を行っています。その中で、江府町の伝統芸能であり、県の無形文化財に指定されている「こだいぢ踊り」の体験学習もあり、例年「こだいぢ踊り保存会」の会員が協力しています。今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から指導者の数など制限しながら土曜学習へ協力しました。



土曜学習：こだいぢ踊り体験風景

② 江府中学校への指導

江府中学校では、毎年体育祭のプログラムの中に「こだいぢ踊り」があります。中学校にも毎年「こだいぢ踊り保存会」の会員が指導に行きます。この取り組みは、20年以上続けられています。



江府中学校体育祭にて

③ 江尾十七夜

毎年8月17日の夜に「こだいぢ踊り」を上ノ段広場にて実施しています。なお、8月17日の本番までに3回の練習日（7月後半～8月前半）を設けて町民全体への伝統の継承も行っています。

④ 令和2年8月17日 初の取り組み ～こだいぢ踊り生配信～

今年の8月17日は例年とは全く変わった1日となりました。新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から様々なイベントが中止となり、特に祭りなどの人が集まり、密になりやすいイベントは中止を余儀なくされました。500年の伝統を持つ江尾十七夜も今年は中止ということが決定し、その夜に毎年踊られていた「こだいぢ踊り」も当然今年は中止だと誰もが思う中、「伝統の灯を消すまい」、「先祖への供養」、「五穀豊穡」、「疫病退散」など様々な思いが重なり「こだいぢ踊り保存会」及び関係機関の尽力により、東祥寺にて初の試みであるライブ配信が行われました。



東祥寺境内よりこだいぢ踊り生配信

3. おわり

今後の課題として後継者（会員数）の確保・育成があげられる。今年度行った生ライブ配信なども活用しながら、新たな伝承・継承のやり方を模索し、これまで以上に学校や地域に根ざした活動を行っていきたい。